

## 研究会・シンポジウム報告

2016年12月16日（金） 定例研究会報告

テーマ： 現代のベトナムにおける科学研究の役割

報告者： 報告：Prof. Dr. Pham Van Duc

（ベトナム社会科学アカデミー副院長、社会科学学院院长）

通訳：Dr. Tran Hoang Long

（インド・西南亜研究所・政治安全保障研究室長）

時間： 15:30～17:00

場所： 生田校舎 社会科学研究所会議室

参加者数：12名

報告内容概略：

社会科学の発展はその社会の発展段階に依存する。ベトナム（社会主義共和国）の場合、大まかに分類すれば1945～75年の「第一期」、1976年から現在までの「第二期」となる。また第二期もドイモイ政策の以前と以後では社会科学の役割が異なってきている。「第一期」においては自然科学のみならず人文社会科学も総力を挙げて祖国防衛戦争に動員されていた。「第二期」になってもドイモイ以前の社会科学は、ソ連や中国の影響を受けながら社会主義のプロパガンダをなぞるばかりで、独自の貢献は少なかった。86年のドイモイ以降社会の急速な変化とともに人文社会科学の役割は確実に前進している。たとえば農村における耕地の自由化と生産力の向上の関係について、現実社会の分析から社会科学は重要な発見をしてきた。社会発展の速度は一層早まり、人文社会科学の役割も重視されている。こうした中で特に顕著な役割をはたしているのがベトナム社会科学アカデミー（VASS）である。VASSには3つの役割がある。それは①国家の発展に寄与すること、②人文社会科学の研究成果を政府に助言すること、③高レベルの人材育成、である。しかし同時に3つの困難も抱えている。それは①社会科学と政治の関係が近いこと、②基礎的な研究資金が少ないこと、③高度な人材育成には時間がかかること、である。なかでも社会科学における民主的システムの構築は大きな課題である。ベトナムでは研究・教育分野でも「ドイモイ」が俟たれているのである。

記：専修大学人間科学部・嶋根克己